

会報

No. 51

平成12(2000)年3月31日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市下京区西七条八幡町31
京都府立図書館仮施設内
TEL (075)321-0200



本との出会い

京都府立大学長 井口和起

私は一九四〇（昭和十五）年二月

目にしみ込んだ。

に生まれたので

そういう時代に本とつきあい始め

情報機器を駆使して可能な限り早く
目指すものにたどりつける施設を有
り難いと思う。今後も私なりに研究
は続けたいと思っているので、その
ための図書館や資料館の充実を願つ
ている。

十一）年四月に小学校に入つた。西確に言えば国民学校一年生である。

入学時に手にしたのは私の場合は「こくご」の教科書だったと思う。

全ての教科書が全員にわたるという
わけにはいかなかつた。「こくご」
を手にした者には、「さんすう」が
わたらず、互いに借り貸しして、家
でありあわせの紙に写した。文字だ
けの教科書だったから、家の者も容
易に書き写せた。翌年に制度が改まつ
て小学校となるが、何より嬉しかつ
たのは教科書がみしなつた六、七、八

たのは教科書がみんなもらえ
しかつて、それをもつて、
も挿絵が入っていたことである。そ
のうえ、絵の背景に淡い緑色が塗ら
れていた。色彩はそれだけだったが、

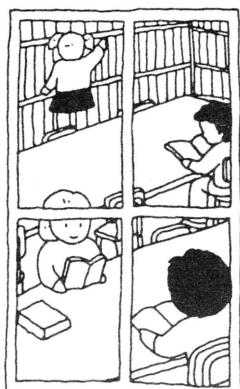
出入りがたが、開架式の書架の間を歩きまわるのが楽しみだったこともある。何か目当ての本を探すというのではない。なんとなく興味を引かれるものに手をのばして、気の向くままに乱読した。何を読んだか覚えているものもあるが、恥ずかしくてとても書けない。

書架の間をめぐりつつ、書名や著者名だけでなく装丁に気をひかれてもよい。ふと目に止まつた本を手にとり、やがてそれに引きずり込まれていく、そんな時をもう一度味わいたいものである。

小学校にも中学・高校にもそれそれに図書室はあつたが、どういうものか足しげく通った記憶はない。そこにいるのはごく限られた本だとう思い込みと偏見を持っていたせいだろう。今にして思えば、学習能力

いく。そんな時をもう一度味わいたいものである。

や内容の是非を考慮して選書されたものが並んでいたはずなのだが、当時の私はそこに思い至らなかつた。自分なりに研究テーマをもちはじめてからは、そんな風に図書館や資料館に出入りすることはなくなつてしまつてゐる。目当ての図書や資料を求めて利用するのだから、最新の



館種をこえた図書館連携を Part 3

第8回京都図書館大会開かれる

第八回京都図書館大会が、平成十一年十二月九日に、同志社大学今出川キャンパスを会場として、一昨年、昨年に引き続き、「館種をこえた図書館連携をめざして Part 3」をテーマに開催され、公共、大学、学校図書館関係者九十名の参加がありました。

開会時の主催者あいさつの中で、日本図書館協会酒川事務局長からは「地方分権、地方自治の名のもとに図書館法が改正されたが、本来その理念をもつとも具現化してきたのが図書館である。その理念を法改正とともにやせ細らせるのではなく、どう太させていくかが、今厳しく問われている。また中央省庁の改編が予定されているが、その中で生涯学習の中核施設である図書館の位置付けがあいまいになることが懸念される。そのような時期に、実践を交流し連携をしていくことが大切。」と強調され、さらに村上実行委員長（京図連協会長）からは「『館種をこえた連携』というテーマのもつ意味を深めることができ今日的に大切なことがあります。インターネット等の普及により図書館のイメージが変わろうとして

いるが、図書館の原点を見忘れてはならない。そのためにも現場の意見を持ち寄るこの場の役割が大きい」とのあいさつがあり、引き続き講演に移りました。日本ペンクラブ会員であり、元同志社社史資料室長として、長年にわたり同志社社史の編集に携わってこられた河野仁昭氏を講師に迎え「図書館と私」をテーマに実体験に基づいた非常に示唆にとんだ内容を語っていただきました。

昼食後、実行委員会を代表して尾上日出丸氏（日図協評議員）から「京都の図書館の動き」を中心に報告があり、続いて現場からの事例発表が三名の方から行われました。

特に、本年は「図書館はこんなにおもしろい」を共通のテーマとして図書館の広報活動を中心、それぞれの立場から事例発表が行われました。最初に公共図書館から、京田辺市の中川新也氏が「京田辺市の広報活動について」、続いて学校図書館から「生徒たちと学校図書館の楽しさを味わう」をテーマに府立向陽高校の山田早苗氏から、さらに大学図書館の立場から、「情報館の広報活動、大学図書館PRの構造と関係」

をテーマに京都精華大学情報館の藤岡昭治氏から、それぞれ豊富な実践や事例をもとに報告があり、熱っぽい雰囲気が、そのまま、後の交流協議へと引き継がれ、最後に同志社大学大城教授から、事例発表・交流協議を踏まえた全体のまとめが行われ閉会となりました。

日本ペンクラブ会員で、元同志社大学社史資料室長河野仁昭氏の講演の後、公共、高等学校、大学の各図書館からそれぞれユニークな広報活動ぶりが発表されました。



第8回京都図書館大会に参加して

京都市醍醐中央図書館
尾上 奈緒

「館種をこえた図書館間連携をめざして」という大会研究テーマも第6回大会から始まって三度目を迎えました。より良い図書館間連携は、まずそこに携わる職員同士が、知り合うことから始まるところです。

インターネットでより多くの情報が得られる時代だけに、利用者の要求も多様化するのは、自然の流れでしょう。各館がもたれあいにならなければ、それぞれの役目を認識した上での連携を目指すとともに、その具体化が望まれます。

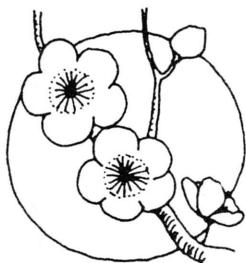
城陽市立図書館 上崎 恵子

城陽市立図書館 菅村 かよ



京都図書館大会に参加させていた
だきました。午後の事例発表では、「
図書館はこんなにおもしろい」を
テーマに、広報活動や学校図書館の
取組み、一般開放されている情報館
の実例報告等を伺いました。初めて
参加させてもらい、一利用者として
聞き入つてしましました。

今回、館種を越えた様々な立場か
らの報告を聴き、図書館職員として
の経験も少ない私にとって、魅力あ
る図書館づくりの大変さと大きさ、
図書館情報を利用者に発信する広報
活動の大切さを考えさせられるいい
機会となりました。



きたるべき二十一世紀に生きる人々
が情報を入手し、情報の本質を見極
める目を育てる一助として図書館が
活用される様願っております。とと
もに自己研鑽の必要性を痛感させて
いただきました。

京都府立総合資料館

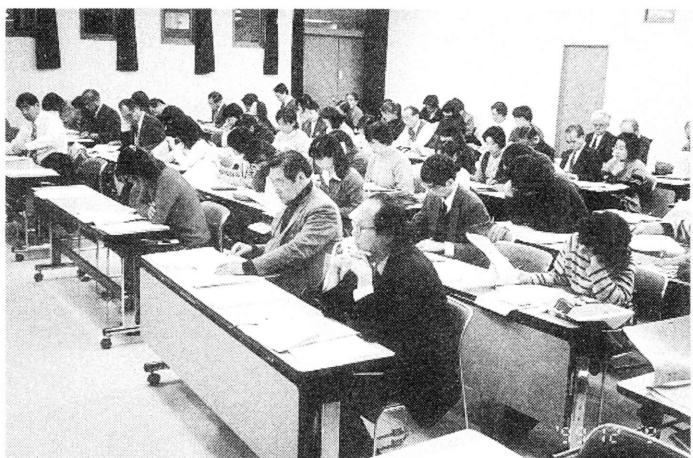
柴田 容子

大会に初めて参加させて頂きました。
「館種をこえた図書館連携をめ
ざして」というテーマが好評で三回
連続の開催と聞いています。個人的
なことですですが、これまでいくつかの
館種で仕事をさせてもらいました。
いずれも大きな仕事を流れは同じで
すが異なることも多く、「こちらの
常識あちらの非常識」とまではいか
ないまでも、異動の都度カルチャ
ショックを受けています。今大会で

多種多様の情報が、様々な情報手
段を通じて入手できる今日、大学図
書館等の学外への開放や、各種図書
館の連携の必要性を改めて実感しま
した。

事例発表の「情報館の広報戦略、
大学図書館PRの構造と関係」は、

一市民として利用してみたいと興味
深くきかせていただきました。「生
徒たちと学校図書館の楽しみを味わ
う」の発表からは、ビジュアル世代
をいかに活字に振り向かせるかの、
種々の取り組みや工夫を、公立図書
館でも生かせないものかと勉強させ
ていただきました。



もまた「私の知らない世界」に出会
い大変参考になりました。
京田辺市の中川氏の報告では、三
歳児半検診に出張コーナーをもらつ
たり、職員の方々の工夫を凝らした
広報活動に感銘を受けました。
向陽高等学校の山田氏のお話には、
作家解題の作成やコーナー展示はじ
め想像以上の多彩な活動に驚かされ
ました。

京都精華大学の情報館については
一般市民への完全開放等興味があり
ましたが、藤岡氏のお話で、実際に
多数の方が利用されている様子が分
かりました。利用者の潜在的ニーズ
について考えさせられました。

最後に、河野先生の講演には、い
ろいろ教えられました。現在、私は
目録を担当しており、日々自費出版
による作品集や詩集等を手に取りま
す。資料館での仕事が一年目とい
うこともあり、こういった図書のもつ
付加的価値がよくわかつていません
でしたが、河野先生のお話を聞き、
具体的な活用事例のひとつを知るこ
とができ、大変参考になりました。
本大会で教えて頂いたことを今後
活かしていきたいと思います。

● 実務研修会（南部会場）開催

二月四日（金）に昨年八月に新設オーブンした久御山町ふれあい交流会館ゆうホールの交流ホールに於いてヤング・アダルトサービスをテーマに講演会を開催しました。

講師に児童文学者の越水利江子氏を招き「愛が欲しくてたまらない」思春期の性」と題した、かなり刺激的な内容の講演でした。歪んだ性愛の情報が青少年に与える悪影響のバターンについて具体例を示され、間違いを駆逐するのに芸術や文化がおおきな役割を果たす事を説かれた興味深い内容でした。

質疑応答は、根源的な愛についての意見や同氏の作品についての感想などが活発に述べられ、施設見学会にも殆ど人が残り、約一時間ほどかけ、真新しいゆうホールや図書館を見学し五時に終了しました。

とかく関心の薄いヤング・アダルトサービスがテーマでしたので参加者が少ないのでと心配しましたが三十七名の参加者があり盛会裡に終了しました。



都府図書館等連絡協議会実務研修会



実務研修会に参加して

井手町図書館 林 成美

去る二月四日、久御山町ふれあい交流館で実施された実務研修会に参加しました。ヤングアダルトサービスがテーマということで、講師の越水利江子さんは、「思春期の性」について、自らの実体験を交えて、作品の背景や、思春期に出会う、性に目覚めるきっかけと受けとめ方は、とてもデリケートな問題であること等を講演されました。図書館を利用

今年一月に近畿公共図書館協議会の主催による三部門の研究集会が開かれました。まず二十日に参考事務部門が京都市生涯学習総合センターで京都市中央図書館との共催で行われました。奥野卓司関西大学教授の講演「インターネット時代における本と文化の変容」、島本町立図書館、奈良県立図書館から事例発表がありました。翌二十一日、奉仕部門が神戸市で行われました。栗東町立図書館竹島氏の講演「滋賀の図書館活動を支えるもの」、事例発表は和歌山県南川辺村公民館、尼崎市立に統一して、精華町立澤田館長の「相楽郡四町の協力、広域利用と広域図書館ネットワークシステム導入」がありました。

最後の児童奉仕部門は二十八日に大津市で、児童文学作家梨木香歩氏の講演「『場所』につく幽霊と図書

近公図研究集会に参加して

参考事務部門

京都市山科図書館 山口 文子

館」、大阪府立中央、加古川市立、草津市立から事例発表がありました。各集会に参加された三人の方に感想を書いていただきました。

されるあらゆる年代の方と接する者として、様々なテーマにアンテナを張り、その本質を見定めていくことはとても大事ですし、図書を提供する立場として、作家の方から直接著作とその作品のテーマに潜む問題についてお話を伺える貴重な機会となりました。

質疑応答の時間に、最近、実務研修会の内容が研修会の本筋から外れているのではないか、という意見があり、実務という言葉から、即戦的にか、あるいはそのテーマに実際の業務でぶつかった時の間接的な収穫として捉えるか、テーマ選びは難しいものだと、思いました。

午後は島本町立図書館の事例発表で、ホームページの開設準備、利用者用インターネット端末開放、レファレンス利用等を紹介されました。奈良県立図書館は、インターネットの

導入経緯と、電子メールやネットワーク情報源をいかに活用しておられるかという事例発表でした。

電子媒体を扱った図書館の課題として、著作権や課金の問題（図書館法17条との係わり）、情報弱者をつくる事、児童のインターネット利用に際してのフィルタリングソフトの件、web情報の保存と活用、セキュリティの問題、そして、図書館員の情報活用能力の向上等が指摘されました。

「図書館員の倫理綱領」にも自己研修が明記されていますが、コンピュータリテラシーやメディアリテラシー、また情報検索活用能力等、自らも高めてゆく事の大切さを実感した研修でした。

奉仕部門

京田辺市立北部住民センター図書室

尾崎 瞳美

一月二十一日、神戸総合教育セン

ターで行われた近畿公共図書館協議会奉仕部門研究集会に参加しました。

午前中、「滋賀の図書館活動を支

えるもの」とし、栗東町立図書館の館長・竹島昭雄氏の講演がありました。講演の中で貸出が図書館サービスの基本であり、カウンター業務がいかに重要かを熱く語られていました。日頃、何気なく貸出をしていたのが、急に恥ずかしくなり、利用者の方に対して失礼なことをしていた

のではなかつたと感じてきてなりませんでした。

また、午後からは、事例発表三つが行われ、その内の二つが広域利用についてでした。今までの一自治体単位ではなく、より大きな単位での図書館活動のあり方が提示され、これから考えていかなければならぬサービスのひとつなのだと思います。

今回の研究集会では、日頃忘れがちな基本を再び認識することができて大変ありがたかったです。そして自館にないサービス・考え方を知り、利用者から望まれるよりよい図書館を作るよう努めています。

児童奉仕部門

宇治市中央図書館 湯浅 紀子

一月二十八日に滋賀県立近代美術館で行われた、近畿公共図書館協議会児童奉仕部門研究集会に参加しました。初めに、児童文学作家の梨木香歩さんによる講演がありました。

その中で、公共図書館は、子どもにとって、学校と家庭のほかに、第三の場所として存在する、とおっしゃっていました。実際に、図書館は第三の場所であり、大切な場所でしたから、現実感のある話だと思いました。

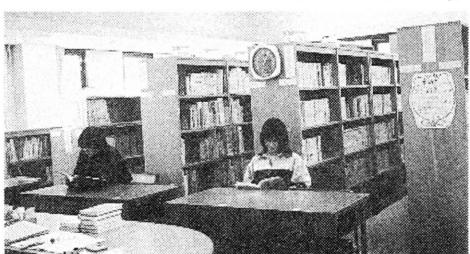
午後から、三人の方による、事例

発表が行われました。どの方にも通していたのが、児童サービスは

市町村の公共図書館にまかせるではなく、府県立図書館でも行うべきだ、というお話をしました。事例の一つである、草津市立図書館では、滋賀県立図書館などの支援に支えられているという報告があり、そういう大きなレベルでの支援があつて、市町村での児童奉仕がより理想的な形で実現できていくのではないかと思いません。

新加盟館紹介

日吉町ふるさと文庫



日吉町は京都府の中ほどに位置する人口六千三百人余りの小さな町です。町内には平成十年三月に日吉ダムが完成し、その直下に温泉や温水プール、レストランを備えた「スプリングスひよし」がオープンしました。日吉町の新たなレジャースポットとして大変多くの人々で賑わっています。

また、今年の四月にはダムに隣接した「府民の森ひよし」に郷土資料館やサイクリングター

ました。どこも少ない人数でがんばっておられ、仕事の負担は大きいけれども、子どもたちにとつて、よりよい読書環境をつくるために、一所懸命だ、という印象を受けました。

今回、この研究集会に参加して、とてもいい勉強になりました。子どももと直接かかわっていく中で、参考にしていこうと思います。

ミナルなどの施設がオープンします。当文庫は、平成四年九月に開室し府立図書館から借りています五千冊と合わせ、一万六千冊の蔵書でスタートしました。現在では蔵書も二万六千六百冊と増え、開架スペースの六一平方メートルでは手狭となつてきました。

主な取組みとして子ども達にもつと本に親しんでもらうため、町内の三小学校と中学校の全校生徒に新刊図書の案内をする「ふるさと文庫だより」を配布しています。又、小さなスペースですが、毎月の特集コーナーを設け利用しやすいよう努めています。

二階にもかかわらず杖をついたご高齢の方や、週末には親子連れの方が来室され、たくさんの方を借りて帰られます。これからも住民の希望に応えられるよう図書の充実を図ることとともにまた、生涯学習の場として、そして気軽に立ち寄れる明るい雰囲気の文庫にしたいと思っています。

○ネットワーク特別委員会

平成十年七月に発足した特別委員会は、各施設のコンピュータ設置状況調査に始まって、研究会、説明会の開催、デイラードとのソフト改良についての折衝、メーカーによるソフト改良費の決定等を行つてきました。

府下の図書館は府と十二市十一町で五十三館有りますが、二十一町、村では読書施設は有つても、図書館は未設置です。

又、五十三図書館の中でもコンピュータ化されていない館もあります。

府立図書館総合目録ネットワークシステムは府下の図書館全てがコンピュータ化され、Aタイプに加入して初めて目的が達せられます。そのためには、先ずコンピュータ未設置図書館のコンピュータ導入と総合目録ネットワークへの参加の促進を図らねばなりません。

平成十三年春の新府立図書館開館に向けて、既にコンピュータを持つている図書館で構成する「図書館総合目録ネットワーク運営協議会」（仮称）の準備会が発足し、相互理解の促進を図るため、三月中に第一次回会合が予定されています。

ネットワーク委員会は今後も存続させながら前記「運営協議会」と協調して、総合目録ネットワークの目的達成を進めて行かねばなりません。

○研修研究委員会

昨年度に掲げた目標である、「京都の図書館関係者のニーズに応え得る研修会の開催」を基本理念にして、引き続き今年度も三回の研修会を開催いたしました。

・宿泊研修会（中部会場）

・実務研修会（南部会場）

・テーマ 館外サービス

・実務研修会（南部会場）

・テーマ ヤングアダルトサービス

・実務研修会（南部会場）

研修研究委員も二年目となり、昨年の経験を生かし、更に新しい試みを取り入れ、充実した研修会の開催に努めました。

例えば宿泊研修会では、現役館長と元小学校教諭の対照的な取合わせによるダブル講師の講演会や夜は九時過ぎまで「おはなしとゲームの実際について」の実技講習会を、実務研修会（北部会場）では、館外サービスという前向きのテーマを取り上げ、また全員参加の座談による意見交換会を、（南部会場）では、過去にあまり例のないヤング・アダルトサービスをテーマにし、児童文学者による講演会を開催しました。

昨年度と同様に三大会で百余名の参加者があり、いざれの研修会も盛会であったので、所期の目標を達成できることに一同満足しています。

○相互協力委員会

去る十二月十五日に、相互協力担当者会議を資料館で開催しました。

特に今回の担当者会議は、新館準備等に伴い、府立図書館資料の貸出が二月より中止される状況のもと、市町村の関心も高く、京図連協未加盟施設も含め四十二施設から四十七名の参加がありました。会議の冒頭に府立図書館小山館長より新館オープニングまでの準備状況や図書館ネットワーク等についてあいさつを兼ねて説明がありました。引き続き、相互協力委員長より、府立図書館の協力貸出・リクエスト等が休止されることに伴う対応策や、市町村間の相互貸借活動の在り方・ウォンテッドの具体的な方法等について報告・提案があり、会議ではそれにもとづき熱心に意見交換が行われました。

その結果、ウォンテッドの対象や方法についての取り扱いが具体的に申し合わされ、二月十日より試行的に実施することとなりました。

なお、その協議を踏まえた詳細については、既に一月十一日付で、各市町村等加盟館にて通知が行われていますので、ぜひ参照ください。また、三月十七日には、相互協力委員会を開催し、次年度に向けての各市町村の意見を集約し、今後の方向を検討することとなっています。

編集子

最後の編集会議を終え、「ああやつと終わつた」とほつとしています。

誌面つくり、楽しくもあり、またけつこう大変でもありました。

資料館での経験の浅い私でしたが、広報委員会の他館の方たちとの交流でおおくのこと学ぶことができました。

来年度は、新しいメンバーでさらにフレッシュな誌面を期待しています。